

# 令和5年度 事務事業評価シート（1）

## [ 令和4年度事務事業 ]

特別会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	介護予防普及啓発事業（北区）			事業番号	216-013
担当部署名	北区役所	局	北保健福祉総合センター	部	北保健センター

### I. 基本情報

#### 事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(4) 高齢者が住み慣れた地域で心豊かに暮らし続けられる社会の実現	
		寄与するKPI	有	取組の方向性	①自立支援・介護予防・健康増進の推進			
			有・無	指標名	前期高齢者の要支援認定率			
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(3)すべての人に健康と福祉を	ターゲット	3.8	
		寄与するKPI	有	取組	地域包括ケアシステムの推進			
			有・無	指標名	—			
無	現状値	—		目標値	—			

2	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和3年(2021)～5(2023)年度）				
3	事業開始年度	平成 18 年度	点検対象年度	令和 7 年度		
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	介護保険法				

#### 事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	各区				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	要介護等認定を受けた高齢者のうち非該当と決定された者等（令和4年度）	対象数	98		
			単位	人		
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	高齢者が住み慣れた地域で、できる限り自立した生活を送れるよう、要支援や要介護状態の予防（介護予防）を図ることを目的としている。				
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	<p>保健センターの看護師が要介護認定の非該当高齢者等の居宅を訪問するなど、生活における問題を総合的に把握・評価し、必要な相談・指導を実施する。主に認知症、閉じこもり、うつのある高齢者に対して訪問する。訪問により、認知症予防、運動機能向上、口腔機能向上、低栄養の防止を目的とした指導助言を行う。一般高齢者ならびに要介護状態の予防に効果が認められる対象者については一般介護予防事業（複合型介護予防教室、げんきあつぷ教室等）につなげる。</p> <p>複合型介護予防教室参加者のうち要介護状態に陥る可能性がある参加者への個別支援を実施している。</p>				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載					
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）					
10	公民連携・協働事業					

### II. 事業目的の達成状況

#### 事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検対象年度	
	複合型介護予防教室参加延人数	人	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度	
			目標値	290	290	400	400
			実績値	225	385		
	達成率	78%	133%				
当該指標を選定した理由	教室に継続的に参加することでフレイル状態に陥らないようにする。 (コロナ禍で感染症拡大防止の観点から規模を縮小して実施)						
目標値の設定根拠・算出方法	コロナ禍前の実績をもとに算出						
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標		
	被訪問延人数	人	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
			目標値	170	170	70	
			実績値	117	57		
	達成率	69%	34%				
当該指標を選定した理由	訪問により、要介護状態予防のための日常生活上のアドバイスを提案し、介護予防、健康寿命の延伸を図る。(コロナ禍による対象者の減少あり)						
目標値の設定根拠・算出方法	コロナ禍前の実績をもとに算出						

## 令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	介護予防普及啓発事業（北区）	事業番号	216-013
-------	----------------	------	---------

### Ⅲ. 投入量

#### 事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	3,014	3,008	3,011	2,146	2,396
13財源内訳					
国支出金	790	752	753	549	614
府支出金	380	376	376	268	300
市債	0	0	0	0	0
その他（被保険者保険料）	821	813	813	580	647
受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
一般財源	1,023	1,067	1,069	749	835
14人件費 (b)	0	0	0	0	0
15年間経費(c)=(a)+(b)	3,014	3,008	3,011	2,146	2,396

#### 事業費の内訳

（単位：千円）

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度		事業費	うち一般財源
					R4	R5		
16事業費内訳	会計年度任用職員報酬		R4 決算 1,695	592		R4	決算	
			R5 予算 1,802	628		R5	予算	
	費用弁償		R4 決算 50	17		R4	決算	
			R5 予算 161	56		R5	予算	
	期末手当（会計年度職員等）		R4 決算 346	121		R4	決算	
			R5 予算 368	128		R5	予算	
消耗品費		R4 決算 55	19		R4	決算		
		R5 予算 65	23		R5	予算		
		R4 決算			R4	決算		
		R5 予算			R5	予算		

### Ⅳ. 事業の効率性

#### 単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
17 ① 被訪問延人数	人	117	57
② 上記①にかかる年間経費	千円	3,008	2,146
③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	25,709	37,649
備考（算出についての説明等）		総コストを按分して算出	

### Ⅴ. 評価

#### 費用対効果に係る所見

18 本事業の対象者である要介護認定の非該当となった者は、令和3年の117人から98人へと減少している。（98人の内18人は再申請をしており対象実人数は80人）。理由の一つとして長引くコロナ禍で自宅等での引きこもりによる筋力の低下等で、要支援、要介護状態になった方の増加が考えられる。  
訪問を希望しない高齢者もいる中で、面接6件、電話99件と可能な範囲で取り組んでいる。高齢者を訪問し、個別支援を行うことはフレイルを予防し要介護状態への進行を防ぐために重要であり費用対効果は高い事業と考える。

#### KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19 長期に亘る新型コロナウイルスの感染症の影響から、高齢者が生活不活発に陥りやすい状況となっている中、要介護認定の非該当高齢者の実態把握を行い、個別の支援を行うことは、要支援要介護状態に移行する前段階の支援として重要な取組である。  
個別での働きかけを行うことにより、フレイルや閉じこもりの恐れのある高齢者1人1人の状況に適した介護予防教室や地域の通いの場への参加に効果的につなげることができており、これにより、心身状態の改善を図り、要支援要介護状態への進行を防ぐことに寄与している。